

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000050		
法人名	医療法人豊和会		
事業所名	グループホームプルミエールさなげ ソレイユ		
所在地	愛知県豊田市浄水町原山1番地54		
自己評価作成日	平成23年10月14日	評価結果市町村受理日	平成24年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成23年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活全般において個々の利用者の生活リズムに沿った支援を心掛けている。日常の家事や活動についても利用者主体で行っており、できる能力を最大限引きだせるよう努めている。活動プログラムも幅広く準備している。目標達成計画にあげた個別支援については、趣味や楽しみに着目し生きがいに繋がるよう積極的に支援している。運営全般については、介護老人保健施設に併設していることを活かせるよう心掛けている。例えば、地域交流活動や消防署との消防訓練などは、母体と連携して行っている。また、職員教育も、合同で年間計画を立案し、継続的に実施している。介護計画の作成などについても、老健専門職の指導や助言を受けることができる体制を取っている。外部研修にもできるだけ多くの職員が参加できるように配慮している。2ヶ月に1回活動内容をホームページで紹介している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がゆったりと豊かにその人らしい生活を送ることができるように常に利用者の目線に立ってケアにあたっている。ケアプランがとてわかりやすく工夫されており各個人の生活の目標が具体的なものになって、皆で共有できている。利用者が日常生活の中で自然に触れ、体を動かす機会を多くするために散歩や菜園、花壇の手入れを行ない、また、馴染みの関係が途切れないで、今までと変わらない暮らしができるよう努めている。家族交流会は運営推進会議の出席者も参加して菜園で採れた野菜や果物で、おやつ作りなど行なっている。その様子がホームページにカラー写真付きで掲載されている。認知症ケアに対する職員の知識向上のため、教育、研修の機会を大切にしており、職員のスキルアップに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに理念・方針を掲示している。母体と同様の理念であるが、地域密着型サービスであるため関連機関との連携を加えた。毎朝のミーティングで理念を唱和し全職員に意識づけしている。	自立を支援する利用者本位の理念を掲げて、毎朝唱和したり、毎週のカンファレンスで話し合っているので全職員の共有は出来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の中学校体験学習や大学の実習などを積極的に受け入れ事業の内容を地域に理解してもらえるよう努め、交流を深めている。地域住民による慰問等も積極的に受けている。	中学生や大学生、海外の実習生の受け入れを行ない利用者と一緒に楽しんでいる。また、公園へ散歩に行ったり、喫茶店に出かけたりして、地域の人との関わりにも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の各種学校の研修の受け入れなどを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を詳細に報告し意見を聞き必要に応じサービス内容の改善を図っている。目標達成状況についても報告し意見を聞きケアに活かしている。	地区の民生委員が2名から4名になり、全員が運営推進会議に出席することで、より地域の情報が得られるようになった。会議の後に家族交流会を行ない、出席者も参加しておやつ作りなど楽しんでいる。目標達成計画の取り組みについての状況を毎回報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れや資質向上連絡会への参加を通して、サービスの内容を伝え、協力関係が築けるよう努めている。	市の介護相談員が毎月来訪し、利用者と話をして実状の把握をしている。市のグループホームの資質向上連絡会や地区ブロックの認知症グループホーム連絡協議会の会議などに参加し、情報を得たり研修に出席して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修により身体拘束の弊害の理解に努め拘束は行っていない。地域に開かれた事業所にするため、また入居者に閉塞感のないよう昼間の玄関の施錠も行っていない。	定期的な研修を行ない職員は何が拘束に当たるのかを理解して、身体拘束をしないケアの実践をしている。特にスピーチロックについては、その様な状況に陥らないよう繰り返し指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修の機会を持ち、内容を理解し防止に努めている。申し送り、カンファレンス等でケアについて振り返り適切なケアが提供できるよう話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業・成年後見制度についての研修を繰り返し行い内容を理解している。必要時は活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書に権利・義務等の内容を明記し、支援相談員、管理者、計画作成担当者等が必要に応じ説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れや入居者、家族の運営推進会議への出席、ご意見箱の設置などを行ない運営に反映させている。	家族に月1回ケアプランをチェックしてもらっている。家族が遠方で面会等にあまり来られない場合プランの原案を郵送している。その後電話にて内容を説明し、同意を得ると共に、署名捺印後、返送してもらっている。家族交流会があり、畑で採れた野菜や果物でおやつ作りなどを行なっている。家族からの意見や要望は職員間で話し合い、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の運営会議、週1回以上のカンファレンス、毎朝・夕のショートカンファレンスを行い意見を聴き反映に努めている。	職員会議等での職員の意見や要望を考慮してケアに反映させている。業務改善については話し合いをして速やかに対応している。管理者は日常的に職員と話をする機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の考課表の自己評価(道徳・技術・やる気面から総合的に評価する)等を通じて、職員の努力や目標の達成状況を把握し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護老人保健施設さなげと合同で年間計画を立て、知識や技術の向上に努め所感の提出などにより理解度も把握している。新採用者については技術チェックや指導も行っている。外部研修の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国・愛知県グループホーム協会、豊田市介護サービス機関連絡協議会に入会し必要な研修会議等に参加している。協会支部の研修も積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、利用者の状況を把握し、アセスメント等を通して本人の想いを受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を行い、アセスメント等を通して家族の想いを受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援相談員・管理者が相談時点の関係者（居宅介護支援事業者等）と連携を取り適切なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしながら、入居者のできる力を見つけその人の力が発揮できる場面を作っている。食事や掃除、野菜作りも一緒に行い、職員と支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン評価時、面会、家族交流会の機会に、本人の日頃の状態をこまめに報告・相談し相互に意見・情報交換を行い家族にも本人を支える役割を持ってもらう。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の生活歴を把握し、スタッフ間での情報の共有に努めている。情報をもとに面会や外出・外泊を機会に馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	俳句教室へ通っている人や図書館へ行っている人も何人かいる。また、孫の帰省に合わせて、自宅の梨畑が気になる人が外泊できるよう支援したりするなどこれまでの馴染みの場所や人との付き合いが続けられるような関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業やレクリエーション等を通じて関わる機会が多く持てるよう支援していく。人間関係の把握に努め、日常生活場面でもお互いに助け合い生活できるような介入を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援相談員、管理者が他のサービスの紹介やその後の状態の確認を行っている。希望時には、相談等にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活を共にしながら入居者の言葉や行動からその人の思いを理解するよう努めている。申し送りや週1回のケアカンファレンスにてその人の思いを把握し情報を共有している。家族の協力も得ている。	1年間で利用者の変化があったが、毎日の申し送りに気づいたことを記入して報告しており、現状に即した思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者現況調査票、利用希望調査票、その他家族・本人からの情報により入居者の今までの生活について把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の日々の生活状況のカルテ記録、申し送り、週1回のケアカンファレンスにて入居者の現状把握に努めている。その結果を計画の立案、実施に生かし、能力を最大限引き出す努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前から本人・家族の希望、本人の現状等を確認し、包括的自立支援プログラム、センター方式で本人の状態を詳細に把握し本人が必要とする支援を多職種で考え、本人本位のプランの作成ができるよう努めている。	毎週1回生活、身体状況などを具体的にケアカンファレンスを行なっている。それを踏まえ、月1回評価表があり見直して評価し、現状に即した介護計画を作成している。家族にも報告をして評価してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントやカルテ記録をもとに週1回のケアカンファレンスを行い、生活状況等情報共有し個々の状況に合わせプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体のアドバイス等を受けその状態や状況にあった対応などを行いADLの保持や生活の活性化及び認知症の進行防止に努めている。たえず家族の状況にも配慮を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーに民生委員になっていただき、必要なアドバイスを受けている。交流会にも参加していただいている。バリアフリーのストアにも協力いただき自由に買い物ができる環境を整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の承諾のもと協力医の往診を毎月受けている。希望により他の医療機関へ受診される際は必要な情報を提供し連携を図っている。必要に応じて受診に同行している。	入居前のかかりつけ医と協力医とはホームの看護師が中に入り連携が出来ており、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が正看護師であり母体や主治医と連携を取り利用者の健康状態の把握に努めている。また別に正看護師が週1回以上勤務し全身状態を把握し健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し情報提供を行う。入院先のソーシャルワーカーと母体支援相談員、管理者が入院早期から連絡を取り連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に方針をあげ、また、重度化や終末期になる前に出来るだけ早い段階から本人や家族と話し合い、主治医も含め全員で方針を共有している。	利用者の状態変化には気を付けており、家族にはホームとして出きる事、出来ない事を理解してもらい、その上で求めている最善策を職員や医師、その他関係者と情報を共有して支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な母体との合同研修等で対応を学び、急変時対応ができるよう心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力を経て防災訓練を行っている。2ヶ月毎にグループホーム内の避難訓練も実施している。隣接の会社に災害時の応援を依頼し了承を得ている。非常災害備蓄を3日分確保している。	避難訓練は定期的に行っており、利用者も参加で水消火器で放水訓練などを行っている。また、訓練後は反省会を行い今後の訓練に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報については本人、家族の了承を得て規程に沿った取り扱いをしている。プライバシー高齢者の尊厳について研修を実施し、職員の意識を高め敬老に努めている。	職員の接遇教育が行き届いており、日常的に利用者だけでなく他の人に対しても人格を尊重している。また、書類など目に付きにくい所に保管しており、個人情報保護にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その能力や思い・希望が十分表出・発揮できるような環境作りに努めている。入居者の希望を聞きながら生活できるよう、自己決定の場を多くしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は基準として設けているが、起床、就寝、入浴時間等決めず個々の生活リズムに合わせて支援している。活動等の参加は無理せず本人の興味や能力に応じて促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や着替えを自分のペースでできるよう支援している。パーマを希望された方は美容院へ職員と出かけた。化粧を好む方には本人の好む物を購入し、自分でできる環境を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しや準備から片付けまで入居者と一緒に行い一人ひとりの力を引き出し活かしている。入居者の意見を取り入れながら献立作りも行っている。畑で収穫した野菜もメニューに取り入れ一緒に調理している。	利用者と一緒に食材の買物に行っている。献立、調理、後片付けなど利用者の力量に応じて、場面作りの工夫をして支援をしている。誕生会には希望を聞き好きな料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは管理栄養士が確認し、栄養のバランスに注意している。夏期は脱水対策として細めな水分補給と水分バランスに気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、実施している。全入居者の口腔状態を把握し、みがき残しがある方はスタッフが洗うようにしている。義歯を使用している方は夜間洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排尿・排便パターンを把握し一人ひとりに合わせて声かけや介助を行っている。トイレで排泄できるよう努めている。	排泄チェック票が尿失禁タイプを知る具体的なものになっており、利用者一人ひとりの排泄パターン以外にも病気を知ることで参考になっている。職員は早めに声をかけてトイレに誘導するなど自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握している。食事、内服や水分摂取に注意し特に便秘傾向にある入居者様には乳製品の摂取を心掛けている。また運動量を増やすよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	家庭に近い環境作りのため、毎日、夕方から夜間の入浴を実施している。週3回以上は必ず入浴できるよう支援している。入浴のない日は、足浴を行なっている。	入浴時間はユニットで違いがあるが、おおよそ15時30分からとなっている。職員は、利用者がゆっくり入浴できるように、そっと見守りしたり、背中など出来にくい部分の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自然なリズムで生活できるよう消灯、起床時間を決めず一人ひとりの生活習慣を尊重している。夜間は、1時間ごとに巡視を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的や副作用・用量について一覧表を作成しカードに貼りいつでもスタッフが確認できるようにしている。薬手帳も活用し服薬の管理に努めている。ステーションに薬の作用を掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の経験を活かし生き生きと生活できるよう、個々の能力に応じて環境を整え、編み物や畑仕事、俳句など個別に支援している。誕生日会の昼食にはその方の食べたい物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外活動(畑仕事・散歩)等を取り入れ外に出る機会が多くもてるよう支援している。本人の希望に合わせた買い物や地域の公園、喫茶店にも出かけている。家族の協力を得て本人希望先へ外出もある。平成22年度の目標達成計画で外出支援に取り組んだ。	散歩、畑仕事、買物、図書館、地域の喫茶店など外出する機会が多い。年間行事の春の花見、秋の紅葉狩りなどの外出時は、手作りのお弁当を持って出かけており、楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望に添って売店へ行きおやつ等買っている。週3回スーパーで食材の買い物にも出かけている。買い物や喫茶で、財布に必要金額を入れ自分で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は本人が希望した時に必要な支援を行っている。自分で作った押し花を貼りご家族へハガキを出された方もいる。プライバシーにも配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に不快な音や光はみられない。また玄関、リビングなどに花や、季節感のある物を飾っている。リビングの飾り棚等を利用して作品展示を行っている。入居者同志がコミュニケーションがとりやすいよう席の配慮をしている。	玄関、リビング、トイレ、浴室、廊下など掃除が行きとどき清潔である。リビングには季節を感じる花が飾ってあった。利用者は個々にリビングのソファに座ったり、テーブルで利用者同士で会話していたりと居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチをおいてある。またリビングのテレビの前に大きなソファを設置し入居者同士がゆっくり会話できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手作りカレンダーを貼っている。使い慣れたたんすやテレビ、小物、時計なども希望で持参いただき居心地の良い空間になるよう配慮している。	居室はホームで作った作品が飾ってあったり、家族の写真、タンス、テレビなど個性的で居心地よい居室となっている。また、利用者が居室で外を眺めてのんびりとしている場面を調査日に見ることができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に応じて、自室がわかりやすい工夫している。トイレや浴室もわかりやすいよう大きく表示している。スペースも広くとってある。物の配置にも配慮している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2393000050
事業所名	グループホームブルミエールさなげ

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	中学校の職場体験や大学の福祉体験の実習の受け入れを積極的に行なっている。隣りにある研修センターの海外の実習生の受け入れも行うようになった。地域交流活動のオカリナやギターの演奏、皿回しなど多方面にわたりボランティアの訪問が増えた。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	2ヶ月毎の運営推進会議には区長や地域ケア支援センター職員や民生委員などの参加があり、活動状況の報告や目標達成状況についても報告し、意見を聞きケアに活かしている。民生委員より備蓄についての紹介があり取り入れている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	市の介護相談員が来訪し、利用者の話を聞き、意見交換書を提出してもらっている。市主催のグループホームの資質向上連絡会などに出席し、行政からの情報をもらったり研修にも参加している。参加した人は後で発表の場を設けている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	「さなげだより」を毎月発行し行事予定や活動報告をしている。家族交流会の活動内容をホームページで紹介している。利用者や家族からの意見や要望に対しては速やかに対応し、ケアに反映させており、運営推進会議でも報告している。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

